

製品名: SP-100 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18147**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	SP100
別名	SP100; Nuclear autoantigen Sp-100; Lysp100b; Nuclear dot-associated Sp100 protein; Speckled 100 kDa
遺伝子 ID	6672.0
SwissProt ID	P23497
免疫原	SP-100 由来の合成ペプチド。AA 範囲: 250-330

背景

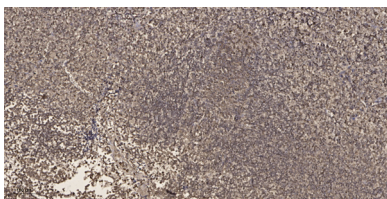
この遺伝子は、核内小器官であり、PML（前骨髄球性白血病）-SP100 核小体の主要構成成分をコードしています。PML と SP100

は、核小体相互作用に重要と考えられている SUMO-1 修飾因子によって共有結合的に修飾されています。コードされているタンパク質はヘテロクロマチンタンパク質に結合し、腫瘍形成、免疫、および遺伝子制御において役割を果たすと考えられています。この遺伝子には選択的スプライスバリエントが同定されており、そのうちの 1 つは高移動度群タンパク質をコードしています。[RefSeq 提供、2011 年 8 月]、疾患：この抗原は、原発性胆汁性肝硬変 (PBC) 患者の自己抗体によって認識されます。ドメイン：クロモシャドウドメインとの相互作用に必要な Pro-Xaa-Val-Xaa-Leu (PxVxL) モチーフを 1 つ含みます。このモチーフには、クロモシャドウドメインに接する中央の Val の -7、-6、+4、および +5 という追加の残基が必要です。ドメイン：HSR ドメインは、核体への標的化と二量体化に重要です。機能：遺伝子発現の制御に役割を果たす可能性があります。誘導：インターフェロンによる。その他：主要アイソフォーム Sp100-A の計算上の分子量は 54 kDa ですが、異常な電気泳動移動度を示し、見かけの分子量は 100 kDa です。PTM：リン酸化されています。PTM：SUMO 化されています。SUMO 化は機能的な核局在シグナルに依存しますが、核内への輸入や核小体への標的化には必要ありません。類似性：1 つの HSR ドメインを含みます。類似性：1 つの SAND ドメインを含みます。類似性：2 つの HMG ボックス DNA 結合ドメインを含みます。細胞内局在：核小体に存在し、核ドメイン 10 (ND10)、PML 発癌性ドメイン (POD)、核ドット (ND)、KR 小体としても知られています。核小体は点状の核質構造で、サイズと数が異なります。インターフェロンによる誘導や、おそらく細胞周期の段階が、アイソフォームの核内局在を調節します。サブユニット：ホモ二量体。スプライスバリエントはヘテロ二量体を形成します。PxVxL モチーフを介して、CBX5 や CBX3 などの非ヒストン染色体タンパク質の HP1 ファミリーのメンバーと相互作用します。エプスタイン・バーウイルス EBNA-LP と相互作用する。組織特異性：広く発現している。Sp100-B は脾臓、扁桃腺、胸腺、成熟 B 細胞株、および一部の T 細胞株でのみ発現し、脳、肝臓、筋肉、非リンパ系細胞株では発現しない。

研究分野

免疫学、免疫系疾患、自己免疫、タグと細胞マーカー、細胞内マーカー、核、その他の核小体、エピジェネティクスと核シグナル伝達、クロマチン結合タンパク質、DNA / RNA 結合

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。